

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3272200266		
法人名	社会福祉法人 隠岐共生学園		
事業所名	グループホーム いこいの家		
所在地	島根県隠岐郡隠岐の島町栄町1076番地		
自己評価作成日	令和4年12月17日	評価結果市町村受理日	令和5年2月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32722

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和5年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームいこいの家では緑に囲まれた高台に位置し、周囲を散歩すると季節を肌で感じる事が出来ます。敷地内では畑を耕し、季節に合った野菜作りを楽しみ、昔の生活習慣を思い出す機会として取り組み、収穫した野菜で食卓をみ、賑やかに過ごす事が出来ます。また、季節に応じた行事を取り入れる事により季節を感じたり、地域との交流の促進に努めています。日常生活では、その人らしい生活を送れる様に支援しています。毎日の日課に身体を動かす機会を設け、身体状態の低下防止や生活の質の向上を図っています。業務優先の生活の流れを行わず、本人の意向を確認しながら、本人のペースで日常生活を送って頂くよう援助することで、本人の自立支援に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

個別支援に取り組み、利用者が自分の持っている力を発揮して自分のペースで生活できるように利用者と話し合い、職員主体ではない日課の作り直しに取り組んでいる。人権、身体拘束、認知症、看取りなど、研修の機会を多く設け、職員が専門職としての自覚を持って働けるように日々研鑽を行っている。利用者は、野菜の植え付けや収穫を楽しみ、旬の食材を使って食事の準備をしたり、毎日体操や踊りなど楽しみながら体を動かし、自分のできることをして生活している。コロナ禍で外部との交流は難しいが、状況を見て花見ドライブや「御霊祭参拜」に出かけている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業の基本理念を事業計画書に記載し、施設内に掲示している。また、年1回法人全体での職員会、月1回の事業所内での職員会を行い、職員に周知・共有しながら実践している。	法人としての研修や事業所の職員会などで確認し合い、共有して実践することに努めている。玄関やデイルーム、休憩室など目につくところに掲示している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節ごとに地域行事への参加や交流会を計画していたが、現在はコロナ感染症の流行により法人全体での外出制限があり、中止している。外出制限緩和時には外出支援を行っている。	コロナ禍でこれまで行っていた交流は中止しているが、感染状況を見ながらできるだけ地域に出かけるようにしている。地域の環境整備や草刈りに参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所での行事の開催時に地域の方々に参加して頂き、認知症に対する理解を深めて頂くよう働きかけを行っているが、現在はコロナ感染症流行のため実施出来ず。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会はコロナ感染症流行のため、開催出来ていない。書面で活動内容、事故、ヒヤリハット、ご利用者やご家族様からの苦情や要望などを記載し、意見を求めている。	書面会議とし、入居状況や活動、事故・ヒヤリハットなど写真を添えて報告し意見を求めている。	コロナ禍のため外部の人にはわかりにくい状況があるので、テーマや項目を挙げて意見、助言を求められるのは如何でしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回開催されている連絡会に出席し、地域包括支援センター職員や民生委員、同業者に事業所の実情や問題点、取り組みなどを報告し、意見を求め、相互理解を深めている。	町主催の地域連絡会に参加し、他事業所や民生委員などと互いに情報交換を行い、地域全体で協力してサービスの向上に取り組む体制を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については事業所内の研修会を年4回行い、全職員が統一した認識を持てるように努めている。又、年6回身体拘束廃止委員会を開催し、現状の振り返り、今後の方向性などの統一を図っている。	計画的に研修会を行い、利用者の目線や立場に立ってケアを振り返り、身体拘束の弊害を理解して取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待については事業所内の研修会を年4回行い、全職員が統一した認識を持てるように努めている。虐待に繋がるような事例が発生した場合は、適宜カンファレンスを開催し、迅速な対応を行っている			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隠岐の島町が主催する連絡会にて社会福祉協議会の職員からの情報提供や意見交換により制度内容は理解している。 現在1名のご利用者が制度利用。分からない事は都度確認を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定など説明が必要な際には、ご利用者様やご家族様に充分説明を行い、理解を得ている。又、定期的に不明な点や不安などを確認し対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員が集めた情報をご利用者様に確認し、迅速に対応できるように体制を整えている。相談しやすい環境の整備にも努め、ご家族様からは定期的に意見を求めている。施設内で閲覧出来る環境を整えている。	定期的に第三者委員会を開催して利用者から意見を聞く機会を設けている。現在面会制限はあるが、様子を伝えながら意見を聞くことに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会で全職員から意見を確認している。職員から相談や意見が出しやすい雰囲気、環境作りに努め、管理者から働きかけを行っている。	管理者は職員が意見を言いやすい環境や雰囲気作りを心掛け、職員会や面談などで意見を聞いている。意見は、業務についての話し合いや利用者の日課の作り直しなどに反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の取り組みとして制度を活用し、年2回管理者と職員個々が面談を行う機会を設けており、目標ややりがい等の聞き取りを行っている。職場環境は月1回確認し、書面で法人に提出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に職員が参加できるよう勤務調整を行っている。月1回事業所内の研修会、カンファレンスを開催し、全職員参加している。法人外の研修はコロナ感染症のため、参加できず。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隠岐の島町が主催する「事業所連絡会」に参加し、保健師、地域包括職員、病院職員、介護支援専門員、同業者との意見交換を行い、ネットワーク作りや勉強会を行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係事業所の担当者から基本的な情報収集を行い、自宅訪問時には環境、生活歴、思い、意向などを把握し、生活環境の変化を最小限にし、安心して頂けるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前、ご家族様との面談を行い、困っていること、不安なこと、要望など把握し、尊重できるよう充分なコミュニケーションを図るように努めている。又、理解しやすいよう具体的に説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画書作成時に、ご利用者様、ご家族様に対して、選択肢を数種類提供するように努めている。また、開始してからご利用者様の様子などの情報提供を、ご家族様に対して密に行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力の把握に努め、過介護にならない様に援助し、本人の出来る事はして頂くよう援助している。ご利用者様間の関係構築に向けて、お互いの状態などを随時説明し、相互理解を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係の構築のため、面会や連絡手段の確保に努めている。又、情報交換をこまめに行い、情報の発信、共有、意向確認等に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会や地域行事等への外出の機会を確保に努めている。現在はコロナ感染症の流行のため実施されていない。終息後は再開予定。	家族には電話や便りで様子を伝えたり日用品を届けに来た時は声を掛けてガラス越しの面会など、今できる支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関わりの場を提供し、様子を見ながら必要時には職員が同席しクッション的役割を果たしている。ご利用者様同士が助け合いながら生活できるよう援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者様が他の施設に移動した後も、ご家族様からの相談や情報に耳を傾け、情報提供等の協力を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前調査時、思いや意向を伺い介護計画書に添付し、全職員が把握出来るようにしている。入所後はご利用者様の観察を密に行い、話しかけの機会を多くし、個別の話し合いの機会を確保している。	利用者の生活歴や趣味などを把握し、日々の関わりの中で話しかけながら思いや希望を聞きカンファレンスで共有している。家族や関係機関と連携して思いの実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査までの所で介護支援専門員から個別に情報収集を行っている。又、調査時に本人様、ご家族様からの生活歴や暮らし方、趣味、在宅でのサービス利用の経過を伺い把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前調査の結果を全職員が把握して日々の援助に関わっている。入所後の身体状態や残存機能、精神面の把握に努め、毎月カンファレンスを行い、援助内容を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回カンファレンスを開催し、ご利用者様の課題と提供している援助内容について話し合いを行っている。モニタリングは居室担当者が行い、全職員で検討している。	利用者、家族の思いを聞き、毎月カンファレンスで気づきを話し合いながら介護計画を作成している。「過介護」にならないように利用者の力を活かせる支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書の目標に向けて援助を行い、個別記録に記載している。日々の生活の観察を徹底し、毎月のカンファレンスで話し合いを行い、介護計画書の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズは、実現可能な内容については迅速に対応している。検討が必要な事例については関係機関の方々を招集し、カンファレンスを開催し、実現に向けた取り組みを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや保育所園児との交流、地域行事への参加促進を援助している。又、町主催の会議に出席し、地域資源の把握、活用に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月かかりつけ医の往診、受診を実施している。受診時には必要な情報提供を行いながら、指示事項を全職員が把握出来るよう働きかけている。	毎月、利用者、家族の希望する医師による訪問診療や受診の支援をしている。利用者の状況を報告し医師と連携して支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル測定、身体状態・精神状態の観察を行い、異常時には報告し指示を仰いでいる。介護面、看護面からの意見を統合し、ご利用者様に活かせるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には関係者との密な情報交換を行い、ご利用者様の不安解消に努めている。又、退院前のカンファレンスに同席させて頂き、退院後の援助について職員に周知徹底を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様、ご利用者様及び関係者と重度化や終末期等の意向確認を行っている。日々の生活の中でご利用者様の意向の把握に努めながら、そのような状態になるリスク高くなった時に、改めて施設の機能を説明し、寄り添いながら検討している。	早めに利用者、家族と話し合い意向を確認し、希望に沿った支援をしている。感染対策を取り法人の許可を得て家族と共に看取りの支援を行った。チームとして支援し振り返りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にはマニュアルを参照し行動するよう職員に周知している。応急手当の手段、観察の注意点などは研修会でやっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(昼間想定1回、夜間想定1回)の避難消火訓練を行っている。災害時には行政、地域住民などと協力出来る体制を依頼している。又、発電機、水中ポンプなどの使用方法について全職員が把握。	災害対策に関しての研修や、年2回、日中、夜間想定避難消火訓練と、毎月小規模訓練を行っている。他の法人施設と協力し合っ て対応する体制を整えている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇・マナーやプライバシー保護、認知症についての研修会を行っている。職員が提供している援助の振り返りを行い、本人の誇りやプライバシーを損ねない援助を検討している。	接遇やプライバシーなどの研修を行い利用者の立場に立って考え人格を尊重した支援に努めている。職員が専門職としての自覚をもって利用者に接するよう意識して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の研修の充実によりご利用者様の立場に立った考え方を行うよう職員に働きかけを行っている。日々の関りの中で個々の状態を把握した上で、能力に応じた自己決定が出来るように援助している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の流れもご利用者様のペースに合わせて計画している。過ごし方についてもご利用者様に確認しながらメニューを選択して頂けるよう援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝残存機能を踏まえた上で、ご利用者様に応じた身だしなみ援助を行っている。衣類も本人に自己決定して頂いている。理容も行きつけの美容院などに個別にお連れするなどの個別の対応を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様個々の嗜好を把握し、嫌いな献立の時には、代替品を提供するように援助している。季節の食材や地域の食材などを取り入れたメニューを提供している。	露の皮むきや盛り付け、収穫した野菜で調理をするなど利用者の力を発揮できる場面を作っている。行事の時は一緒におやつ作りを楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の献立を参考にバランスのとれた食事を提供している。ご利用者様の意向や状態に応じて、刻み食やお粥などを提供している。食事時間も本人の好まれる時間に提供出来るよう援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。状態に応じて声掛けや介助を実施。義歯使用者は毎晩洗浄剤を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人の排泄パターンの把握に努め、本人に適した時間にトイレ誘導などを行うように援助している。残存機能の把握に努め、過介護にならないよう全職員でご利用者様個々に応じた対応を行っている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し声をかけながら支援している。現在の機能が維持できるように環境整備を行って支援し、ズボンの上げ下げやパッド交換ができるようになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活の中に運動を取り入れられる様に働きかけを行っている。トイレ誘導時には腹部のマッサージを実施している。便の性状の確認を行い、必要時には主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の希望や体調、意向、精神状態などを考慮しながら、対応している。ご利用者様のペースに合わせた個別援助を行っている。	利用者の希望や体調などその時々状況に合わせ、時間や日にちなど柔軟に対応し支援している。季節のゆず湯など楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調、年齢などを考慮し、意向を確認しながら、個別の対応を行っている。問題が発生した場合はカンファレンスを開催し、対応を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様個々の内服情報を全職員が閲覧出来る環境を整えている。処方内容の変更時には連絡帳などを活用し、全職員に周知。服薬後は一定時間状態観察を行い、その後行動して頂く様援助している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様個々の生活歴や性格を把握し、状態に応じた役割を持って頂くよう援助している。季節ごとの作業内容を職員と一緒に行って頂く事により、精神的な負担の軽減にも努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様個々の希望を確認し、希望の実現に向けて行事を計画、実施している。現在はコロナ感染症の流行のため、実施出来る期間が限られた。	散歩や畑仕事での野菜の植え付けや収穫などを楽しみ、コロナの感染状況を見ながら小グループでの花見ドライブや車内からの「御霊祭参拝」など工夫して支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理はご利用者様、又はご家族様が管理している。書面にて契約したご利用者様については施設で管理している。買い物などの行事の時には、職員と一緒に支払いなどの援助を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に事前に説明し、了承を得た上で、ご利用者の希望により、何時でも連絡出来る環境を整えている。手紙についてはハガキ、便箋、封筒、切手など必要な物を準備し、環境を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では季節の花を生けたり、掲示板にはご利用者様が作成した絵や習字、作品などを展示している。季節を感じて頂けるよう工夫している。	季節の花や利用者の作品などを飾り、においや衛生面にも配慮して環境作りをしている。ソファを設置し利用者が思い思いに過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースではテーブルの部分とソファの部分に分かれており、一人で過ごしたい時にはテーブル席を使用し、他のご利用者様と一緒に過ごしたい時にはソファ席を使用して頂くよう援助している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は全室個室となっており、在宅で使い慣れた家具や、ご家族様の写真など適宜持って来て頂き、飾る事により居心地の良い環境作りの工夫を行っている。	使い慣れた家具や写真、趣味のカラオケ、ラジカセなど自由に持参してもらい利用者が安心して過ごせるようにしている。安全で自立して過ごせるよう利用者に合わせ工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様個々の状態に応じて、環境を工夫する事により安全かつ自立した生活を送れる様に援助している。個別のリスク管理を行う事で、事故の軽減と共に自立支援を実現している。		